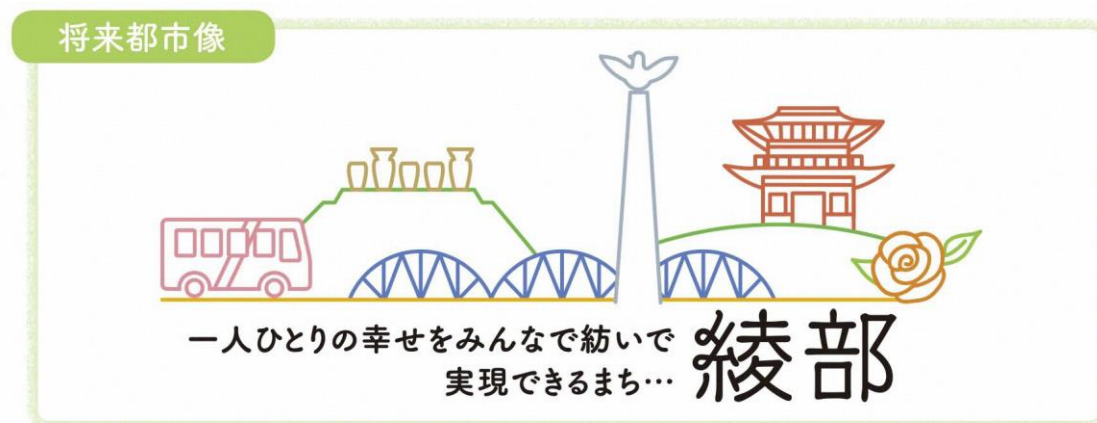


§5 将来目標の設定

5-1 将来都市像の設定

本市の最上位計画である「第6次綾部市総合計画」で掲げられる将来都市像「一人ひとりの幸せをみんなで紡いで実現できるまち・・・綾部」の実現を目指します。



本市は、市民と行政、また市民同士が、お互いに顔の見える関係を築いており、市民一人ひとりがこのまちで良かったと幸せで安心して暮らせるよう、きめ細やかなまちづくりを進めています。

本市の大きな財産である「豊かな自然」と「人々の心の温かさや地域を愛する熱意」をいかし、一人ひとりの夢や希望を実現できるよう、市民や企業はもちろん、本市に関わるみんなで一緒に紡いでいけるまちを目指します。

5-2 都市づくりの基本目標

将来都市像や都市づくりの課題を踏まえ、今後目指すべき都市づくりの基本目標を定めます。

目標1 快適で住みよい生活圏と活力ある都市づくり

- 市街地においては、道路や下水道など整備された都市基盤をいかし、商業・業務機能の向上や、商店街の活性化を促進するとともに、医療や子育て支援機能の充実など都市機能の整備を計画的に行い、市街地内に居住の誘導を図ることで、適切な人口密度が維持された利便性の高いコンパクトな市街地の形成を目指す。
- 子育て世代等の定住を促進する新たな住宅用地の確保にあたっては、コンパクトな市街地を形成する観点から市街地周辺での確保に取り組み、都市機能や公共交通の利用圏人口を確保することを目指す。
- 農村地域では、各地区の中心地を核としたコンパクトな生活圏を形成することで地域コミュニティや日常生活に必要なサービスの維持を目指す。
- 都市機能が集積する市街地中心部と各地区の中心地を結ぶ交通ネットワークを形成するため、地域の実情に応じた移動手段の確保と充実を図ることで「コンパクトアンドネットワーク」の都市構造の実現を目指す。
- 地域が抱える課題の解決や魅力の向上を図るため、地域特性やニーズをいかしたデジタル実装に取り組み、誰もが住みやすい都市（スマートシティ）の実現を目指す。

目標2 生活・産業基盤が整った魅力ある都市づくり

- 道路、公園、上水道、下水道等の都市施設の整備、充実及び適切な管理により利便性、快適性の維持・向上を目指す。
- 公共施設の適切な配置や維持管理・更新による長寿命化に取り組むとともに、公共建築物の統廃合により余剰となる旧施設やその跡地を有効活用して、地域に必要なサービスの誘導を推進する。
- 良好な交通アクセスをいかして更なる企業誘致を推進するため、新たな産業用地の確保を図るとともに、既存工場の操業環境を維持するために柔軟な土地利用の誘導を図る。

目標3 由良川水系等の自然・風土と調和した持続可能な都市づくり

- 由良川、犀川、八田川、上林川、伊佐津川沿いの豊かな自然環境、資源、景観について保全する。
- 水源の里集落や里山集落等の個性をいかし、魅力ある集落づくりによる地域振興と活性化を目指す。
- 省エネルギーの推進、再生可能エネルギーを活用した取組などにより、ゼロカーボンシティの実現を目指す。

目標4 安全で災害に強い都市づくり

- 災害時の安全な避難ルートを確保するため、未整備となっている道路等の整備と代替道路の検討を推進する。
- 自然災害による被害を軽減するためには、ハード・ソフト対策が一体となった総合的な防災対策を推進する。
- 安全で暮らしやすい市街地を形成するため、密集地では、道路等の整備や住宅の耐震・不燃化の促進等、防災機能の向上をはじめとする住環境の改善を図る。
- 市域に点在する災害危険の高い区域などから安全な区域への居住誘導などについて、長期的な視点に立って検討し、安全でコンパクトな都市づくりを目指す。

目標5 市民等と行政の協働による個性をいかした都市づくり

- 本市が育んできた文化や風土を共有して人と人との絆を大切に育てるとともに、市民や事業者等が都市づくりに参画できる機会を増やし、都市づくりの多様な場において市民等と行政の協働による都市づくりを目指す。

5-3 将来目標人口の設定

本市の人口は、市制施行時（昭和25年）の5.4万人をピークに一貫して減少が続いており、令和2時点で約3.2万人となっています。国立社会保障・人口問題研究所がとりまとめた「日本の地域別将来推計人口（平成30（2018）年3月推計）」では、令和17年における本市の人口は、令和2年より約0.7万人少ない約2.5万人まで減少する見込みとなっています。

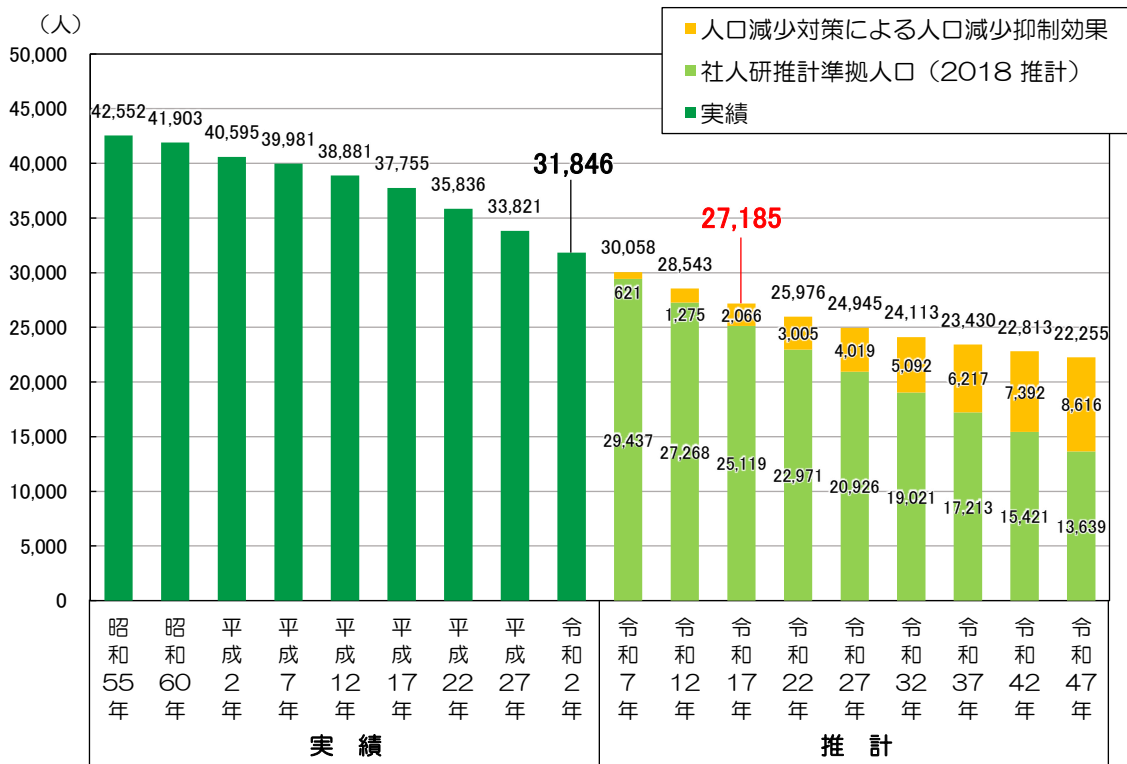
全国的に少子化に伴う人口減少が進行する中、本市では、令和元年度に人口の長期的な将来展望を示す「綾部市人口ビジョン」を改定するとともに、「第2期綾部市まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定し、令和17年に約2.7万人の人口を維持することを目標として設定しています。

また、「第6次綾部市総合計画」では、「綾部市人口ビジョン」に沿って、計画期間である令和3年度から令和12年度までの10年間の人口フレームを約3.0万人として設定しています。

本計画においては、上位計画との整合を図るものとして、令和15年の将来目標人口を約2.8万人として設定するものとします。

令和15年の将来目標人口 約2.8万人

■綾部市の人口推移と将来目標



資料：国勢調査（令和2年以前）、綾部市人口ビジョン（令和7年以降）

5-4 将来の都市構造

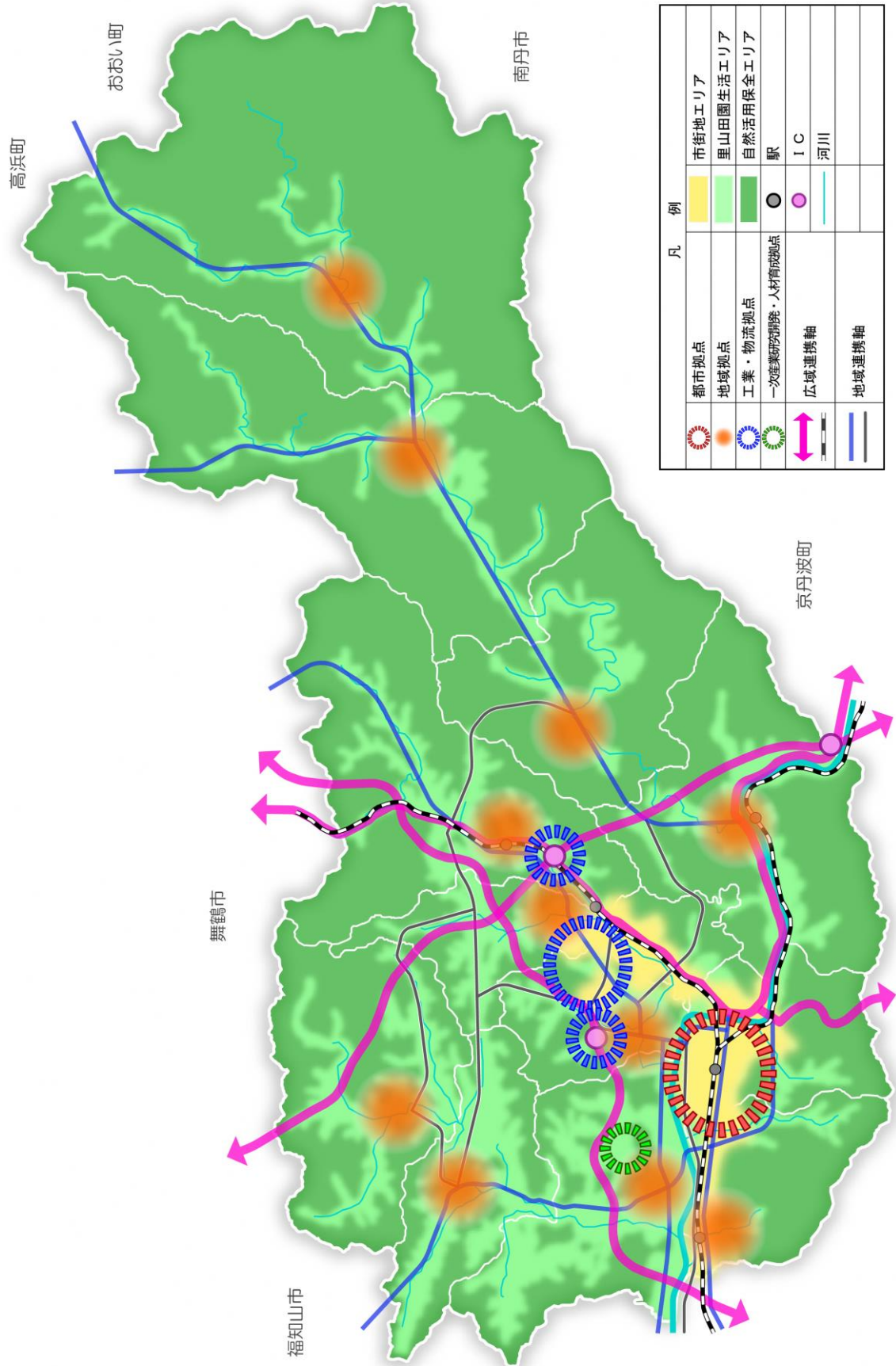
本市は昭和25年に1町6村が合併して市制を施行、その後6村（佐賀村の一部を含む）を合併し、12の旧町村が現在も自治会連合会を組織しています。それぞれに町や村時代の中心地があり、学校や商店等が立地し小さな拠点が形成されてきました。

本市では、これらの地域（自治会連合会）ごとに特色あるまちづくりを進めることにより、市全体の活性化を図ろうとしています。

そこで、各拠点が地域特性に応じたまちづくりによって輝き、それぞれの拠点を交通ネットワークでつなぐ「コンパクトアンドネットワーク」による都市構造を目指します。

都市構造は、利便性の高い市街地中心部から自然豊かでゆとりある農村地域まで、多様な地域特性に応じて、都市機能の適切な維持・充実を図る「拠点」、拠点をつなぐことにより地域間の連携・交流を促進させる「都市連携軸」、土地利用のあり方を大きく示す「エリア」で構成します。

区 分		内 容
拠 点	都市拠点	<ul style="list-style-type: none"> ・ JR綾部駅、市役所、綾部市立病院周辺を位置づけ ・ 商業・業務、文化、医療、福祉、行政、交通結節等の都市機能の集積を促進し、多様で高度なニーズに対応する都市サービスを提供する複合的な都市機能の充実を図る
	地域拠点	<ul style="list-style-type: none"> ・ 都市拠点を除く、各地区の生活圏の中心地を位置づけ ・ 都市拠点と有機的に連携しつつ、日常生活を支えるサービスの確保を図ることで、生活利便性を確保する
	工場・物流拠点	<ul style="list-style-type: none"> ・ 京都府綾部工業団地、綾部市工業団地、綾部インターチェンジ、綾部安国寺インターチェンジを位置づけ ・ 主要産業となる工業、物流等の振興を図るとともに、既存企業との交流促進や、新たな企業誘致等により地域経済の活性化と就業場所の拡充を図る
	一次産業研究開発・人材育成拠点	<ul style="list-style-type: none"> ・ 以久田野の京都府立農業大学校周辺を位置づけ ・ 京都府フードテック基本構想に基づく拠点整備の推進を図る
都市連携軸	広域連携軸	<ul style="list-style-type: none"> ・ 舞鶴若狭自動車道、京都縦貫自動車道、国道27号、173号、JR山陰本線及びJR舞鶴線を位置づけ ・ 行政区域を越えた広域的な交通・物流・交流に資する動線軸の形成を図る
	地域連携軸	<ul style="list-style-type: none"> ・ 主要地方道及び一般府道・市道の一部を位置づけ ・ 市民の日常生活における利便性、アクセス性の向上を目指し、地域間の交通・交流に資する動線軸の形成を図る
エ リ ア	市街地エリア	<ul style="list-style-type: none"> ・ 一定の人口や都市機能が集積する区域を位置づけ ・ 住みやすく、快適で便利な都市環境が形成されるべきエリアとして、都市機能の維持・充実と計画的な都市施設整備を図る
	里山田園生活エリア	<ul style="list-style-type: none"> ・ 市街地エリアを除く、里山、田園に囲まれ自然環境の優れた集落や農地等からなる区域を位置づけ ・ 豊かな自然や、農業との調和を図りつつ、日常生活を支えるサービスが確保された居住環境を守ることにより、エリアの魅力向上に努め、田舎暮らしを希望する人々の移住・定住の促進を図る ・ 地域資源をいかした産業、観光、交流を促進することにより、地域の活性化の促進を図る
	自然活用保全エリア	<ul style="list-style-type: none"> ・ 豊かな自然と里山風景をつくりだす森林、原野、河川等の区域を位置づけ ・ 美しく清らかな自然環境に恵まれ、その保全が優先されるべき地域として景観に配慮し、森林の保全や林業の振興、自然環境をいかしたレクリエーションの場として活用を図る



■ 将来都市構造図